

環境技術と知財

～環境技術への取組みと太陽光発電事業～

第10回「JIPA知財シンポジウム」

平成23年2月3日(木)

京セラ株式会社

法務知的財産本部
部品知的財産部長
竹宮 啓介

- 1. 京セラの環境技術への取組み**
- 2. 京セラの太陽光発電事業**

Green Products

京セラの環境技術への取組み

京セラは、「敬天愛人」の社是のもと、「**共生(LIVING TOGETHER)**」をすべての企業活動の基本に置いています。



LIVING
TOGETHER

ファインセラミックス

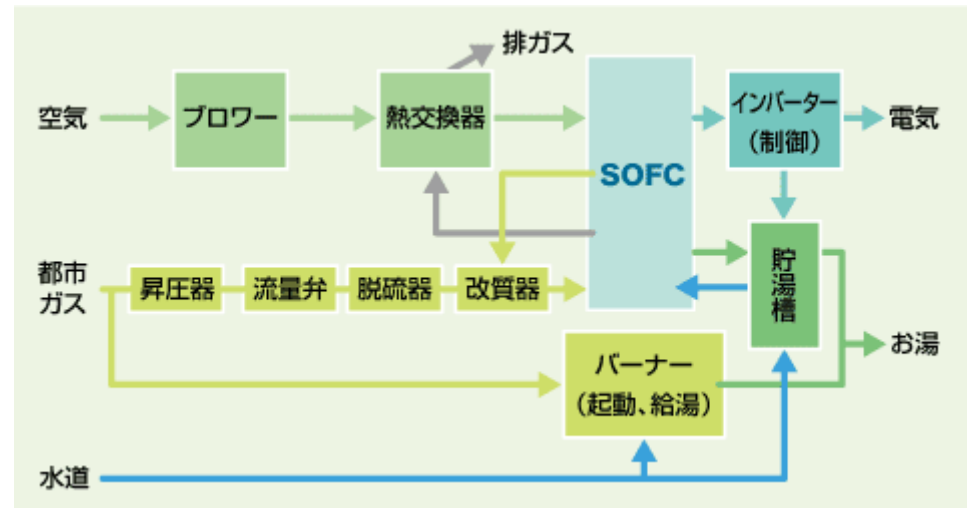
京セラの原点、ファインセラミックスは、優れた耐摩耗性、耐熱性を生かし、環境に配慮した商品や社会に貢献する商品に数多く用いられています。



SOFC

京セラでは、創業以来培ってきたファインセラミックス技術を活かして、**固体酸化物形燃料電池(SOFC)の開発に取り組んでいます。**

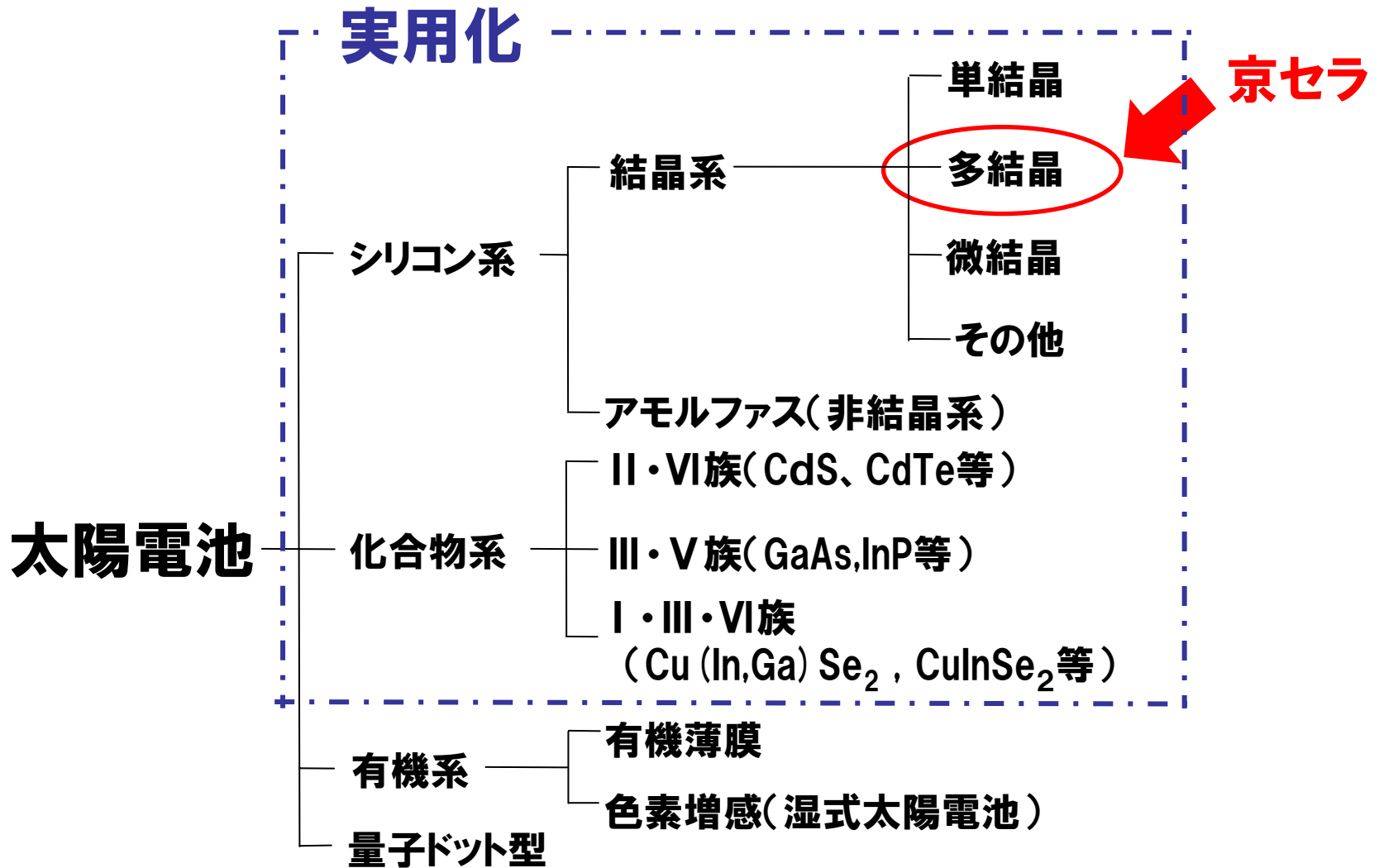
燃料電池は、エネルギー効率が高く、二酸化炭素(CO₂)等の排出量削減につながることから、新たなエネルギー源として実用化が期待されています。



Solar *Energy*

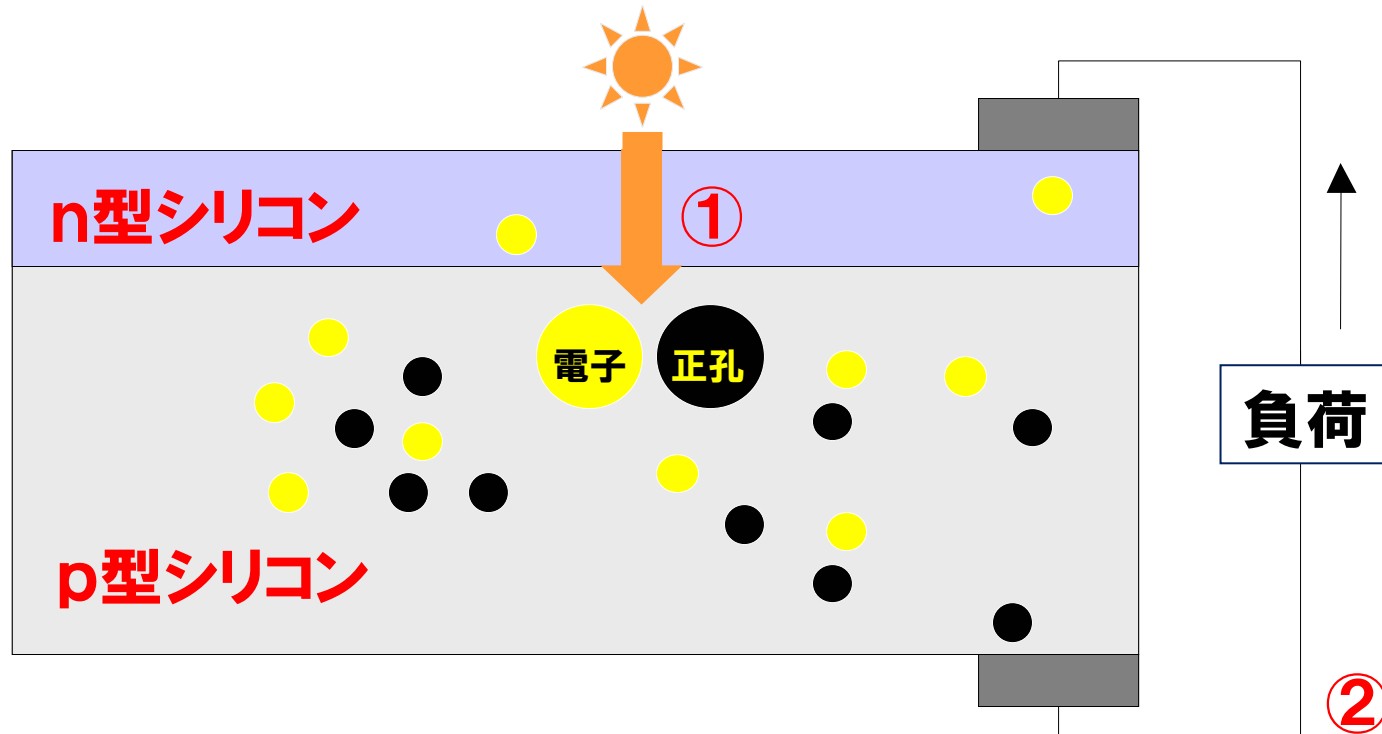
京セラの太陽光発電事業

太陽電池の種類



太陽電池の動作原理

- ①ある一定以上のエネルギーの光がシリコンに入射すると電子と正孔が発生する。
- ②電子がn型シリコンに、正孔がp型シリコンに到達し、太陽電池として電力が発生する。



京セラの太陽光発電事業の歴史



オイル
ショック

国内
系統連系
開始

COP3

ドイツ
EEG
改正

CA/USA
CSI

1959

1973

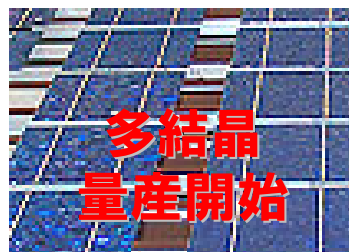
1991

1997

2004

2006

2010



太陽光発電事業における課題

現状の課題

海外メーカーの太陽光発電事業への新規参入



価格競争の激化

知財面から見た対策

対策①:生産拠点の海外移転
⇒生産拠点移転に伴う技術流出の防止

対策②:技術革新による他社製品との差別化